

年 頭 所 感

国際ロータリー第2650地区
2001～2002年度ガバナー

西村 二郎

新しい年を迎え、おめでとうございます。

昨年は米国での同時多発テロに、報復戦争、そして経済不況と、まさに天変地異の激動の年でした。それを反映して2001年を表す漢字に「戦」が選ばれましたが、2002年は清水寺の森 清範貫首に「和」の字を揮毫していただける世相になるよう、我々人類は努めなければなりません。

このように、厳しい社会状況の中で、今、ロータリアンには人間らしい心をもって世界平和のために活動することが求められています。そのためには人類愛が不可欠ですが、それを構築するものの一つに仏教の心があります。「四無量心」、つまり、慈・悲・喜・捨の心です。慈は慈しみ、深い友情をもって万人に樂を与え、悲は万人をもって悲しみを分かち合い、喜は万人とともに喜び合い、捨は心が私情によって乱されず、平静、無私、平等であることです。この心で、ロータリーの究極の目的である「人道的な世界平和」に向かって活動しようではありませんか。



1992～1993年度 林 一彦ガバナーは「ロータリー夢の11章」の第1章に「花は無心に蝶を呼び蝶は無心に花に集まる」と良寛の句をあげ、花はロータリーに、蝶はロータリアンに例えて、世界の120万人を越えるロータリアンは、ロータリーの魅力のもとに集まる蝶のようなものだと言われています。現在ではロータリーの魅力は国境を越えて、世界163ヶ国、クラブ数30,149の連合体として活動しています。

その奉仕活動も多方面にわたっており、職業奉仕は私たちロータリアンにとって最も大切な奉仕です。また、私たちの地区世界社会奉仕委員会では、国際ロータリーの方針に沿ってポリオ撲滅のために、ロータリアン、ローターアクトと他の奉仕団体の方々を含め総勢58名が、1月9日から17日までの期間にSEARO（南東アジア地域）ミャンマーへの活動に参加します。世界からポリオをなくすことができれば、世界の子供たちが健康である喜びをともに分かち合うことができるでしょう。

人は時代に支えられ、また、その人が時代を作っていますが、これからはロータリーも時代とともに変化していかねばなりません。そのためには善意、寛容と慈悲の心に加えて、「癒しのこころ」が必要とされるのではないのでしょうか。

ロータリーは奉仕の理想への実践哲学といわれていますが、奉仕には感動が求められ、その感動が人類を癒してくれているのです。

年の初めにあたり、もう一度生きる価値を認識して、自己を磨き、「夢とあこがれ」を求めて、価値ある人生を歩みたいと切に願います。

皆さんもともにロータリーを楽しみましょう。

新春対談 癒しの心

ロータリー財団トラスティ、R.I.元理事 千 宗室
 R.I.第2650地区ガバナー 西村 二郎
 司会 R.I.第2650地区幹事長 岩佐 孝雄(京都南RC)



岩佐 テーマ「癒しの心」と言うことで、新しい年に良いお話を賜れば幸いです。

西村ガバナー 癒しとはどう言う意味かと、広辞苑を引いてきました。癒しとは病気を治す、喉の渇きを癒す、心の悩みなどを直すと言われていました。本来、癒しとはそういうものであると思います。

自然の変化、季節の変化は、大変神秘的なものであります。人間の生命は土とか、風とか、水とか、草木などによって深く癒されています。風は目には見えませんが、はっと気がつく、今年は秋になっていました。大変忙しい日々を送っていて、秋がやってきたことに気がつきませんでした。暑かった夏の公式訪問の疲れた心を、癒してくれている季節になったのだなと実感することができました。お家元からお茶の心というものを、日頃私達にお教えいただいておりますが、それは癒しの心に繋がっているのではないかと思います。

千 癒しとは、セフティーコントロールマインド、自分の心を自分でコントロールするのが大事であり、この忙しい世の中で、何が大事かと言えば自分自身を見つめ直すという、その瞬間が非常に大切である。癒しと言う素

晴らしい言葉があるのですね。

病気を癒す、病気は身勝手なもので、病気に打ち勝つ気持ちがなければ、病気に負けてしまうとよく言われる。癒しと言うことは、病気に打ち勝つためにも必要なことである。忙しい人こそ、癒しという意味の裏にある、間をとる。間を持つことができなければ、癒しと言っても癒されないですね。

陰陽師がブームですが、陰陽のなかにもっとも大事な五行がある。木火土金水。木は草ですから春、火は暑いから夏、その間に土用がある。金は秋で、水は冷たいから冬です。春から夏にすぐになるのではなく、春から夏になりますよ、という間に土用がある。夏から秋になるその間にも土用がある。そうした季節の自然のなかにも、間と言う道理があり、瞬間的に季節を感じることが大事なのです。

西村ガバナー 季節が癒しに関連するお話でしたが、人間と言うものは単独で生きていくことはできません。他の多くの生命体とか、環境との共生関係の中で生かされています。共生関係と言うことが、すなわち癒し、癒されという互恵関係にならなければならないと考えています。自然環境によって私達の心や身体が癒されることは、私達も自然環境に対して癒しの心をもって接しなければならないと思います。それが今、言われている環境保全ではないかと思います。自然のなかから思いがけない癒しをもらっているのですね。

千 日本人には良い言葉の教えがあります。ふりゅう、風流ですね、室町時代に生まれた日本の味です。和歌にしても俳句にも茶道にも風流のなかに一つの哲学的なもの、思想的なものが含まれています。風がさらさら - と流

れている。と言っているのが風流で、止ってはいけません。人間は自然環境に生かされていることに感謝しなければならない。今はそういう人が少ない。夏がきたら海だ。冬がきたらスキーだ。季節感というよりも、その季節に合わせてレジャーなどに先走っている。考えなければいけないことです。スポーツも良いが心のスポーツを考え味わうべきです。



西村ガバナー 癒しと言うことをロータリーと結びつけますと、ロータリーは、寛容と善意と慈悲の心とされています。ロータリーの活動は、癒しの心が必要になってくるのではないのでしょうか。毎日忙しい仕事に追われて例会に出てきますと、親しい仲間に出会います。おはようと声を掛けられ、握手をしたりいろいろなことを語り合うことによって、自分の疲れを忘れ、また職業奉仕に向かって頑張ってみようと蘇ってきます。

そこで自分の心が癒されて、地域社会、国際社会にも同時に癒されるのではないのでしょうか。癒しを共有して分かち合い分与することになります。このことがロータリーでの癒しのシェアではないかと思えます。

千 自然環境、ネイチャアエンバールメント。環境保全がうまく結びつく地球のなかで一番大事なことであり、我々が守っていかねばならない問題だが、それが今足元から崩されています。

ジェームス・ラブロックという英国の科学者は、人間は地球を舐めてはいけません、地球に感謝しなければならない。我々と同じく地球も呼吸している有機物体であること忘れてはならない。それを自分達の間尺だけで物を処理しているから、天変地変と言う災害がどんどん起ってくる。

天災だけではなく、人災によって環境保全を潰している。少なくともロータリアンとして守り、指導していくことが大事で、癒しの心がどこかにいってしまう。それは癒しの心考えた Four Way Test にも結びつく。Four Way Test さえ守っていれば素晴らしい

人間生活が送れる。だけど実行することは難しい。あれ程難しいものはないですね。

西村ガバナー ハーバート・テラーが提唱したものです。実行するのは難しいです。しかし、行動の尺度として考えればよいのではと思います。

千 ガバナーはどのような点を取りあげられますか。

西村ガバナー 私は一つ一つについてお話をすることよりも、四つのテストは、他人に迷惑をかけない人生を歩むことだと思います。子供の頃から母に教えられた言葉です。

千 他人に迷惑をかけない、それが Four Way Test なのです。

他人に迷惑をかけないで真実に生きていこうという、しかし真実ということも曖昧なものです。嘘も方便とも言います。皆さんが嘘つきではないのですが、親鸞聖人も言われたように、善人ばかりではない。人間は善人ではないから何かをぶつけて、少しでも善人になっていく。そこに布施があり、自分より恵まれない人達のために、手を施すことによって少しでも自分がいいことをさせていただいたと、良いことをさせていただいたということにより、善人という哲学を、自分を知るわけです。ロータリーの超我の奉仕に結びつくのではと思うのです。

西村ガバナー 文明の社会になってき

た日本を考えてみますと、日本人すべてとは思いませんが、豊かな生活のなかで科学の進歩、IT時代、機械だけの生活になり、人間の心を忘れた時代になってきているのではないかと思います。



21世紀は心の時代だと言われています。

ロータリアンとして人間らしい心とは何か。思いやり、優しい心が人間らしい心ではないかと思っていますが。

千 ロータリーが掲げている奉仕、大きなことも必要ですが、小さなものからでも地域社会と結びついて、ロータリアンが、このようなことを奉仕していることを知ってもらい、地域社会の人々に目覚めてもらうことも大事で



す。個々にロータリアンが、それだけの心構えをもってやらなければならない。ロータリーに入会して、ステータスシンボルを得ただけで、ロータリーをふりまわしただけではいけない。ロータリーは己を謙虚にさせるための修練の場で、そこから紳士淑女の道場である。道であるものを納得させる場であり、それは毎週の例会であり、毎週の例会が大事な反省の場であると思いますね。

西村ガバナー ロータリーには感動が必要だと言われています。感動を受けることによってロータリアンは癒されるのではないかと思います。

千 全くその通りです。ポリオ投与に参加した元会長のジム・ボーマンは、フィリピンで彼の服の袖を後からひっぱる5つぐらいの男の子から、涙を一杯うかべて「ぼくの妹を助けてくれてありがとう」と言われました。彼は全身がわななき、感激に打ち震えたといっています。本当に自分がポリオを投与してよかったと、感動の瞬間ですね。ロータリーの仕事は単なるプロジェクトじゃなく、思考することによって感激をもたなければいけないと思います。

岩佐 これからのロータリーの展望とありますが、新春と言うなかで夢などはいかがでしょう。

西村ガバナー 新年にあたり今年はどうのように飛躍していけばいいのか、足元を固めていくにはどうしたらいいのか、お教え願いたいと思いますが。

千 いよいよ関西で、2年後に世界大会がせまってきました。関西エリアが世界大会を契機に経済、文化、あらゆるものが浮上するいいチャンスだと思います。それには2650地区のメンバーが、結束してくれなくてはと願ひ

ています。あの人達だけがやっているだけで我々には関係ないのだと、言っているロータリアンもおられます。何も好きでやっているのではないのです。

忙しい人ほど、ロータリーの色々な役職をこなしていくと昔から言い伝えがあるほどです。皆が忙しいなかで、癒しの心をもってお互い助けあって世界大会を成功させ、一段と飛躍せねばと思います。

それが地域社会にも、ロータリーと言うものをもっともっと理解してもらうことになるのです。ロータリーのイメージの向上、地域社会の人達にどれだけ理解してくれるかです。広報活動も大切です。もうひとつ地域社会の各種団体、ライオンズ、ソロプチ、ゾンタなどの団体と一緒に奉仕活動をするのもよいのではないかと思います。

岩佐 1月11日から世界社会奉仕委

員会でミャンマーにいかれ
ます。ライオンズから、二
人参加されて一緒にいか
れます。これが色々な団体
との奉仕活動の一端となれ
ばと思っています。それでは
最後に癒しの心ということで。



千 癒しは、一人ひとりにある問題ですね。癒しの哲学は自分ながらの立場で考え、ロータリアンは癒しというものを何らかの奉仕に結びつけていただければ、素晴らしい癒しの哲学として、実践される哲学になるのではないかと。やさしさ、おもいやり、いたわりあい、人間がそういう本当の姿でやれば、共通の理念が生まれると思います。

今年は午歳ですね。馬は威勢が良く走っていく。まさに西村ガバナーは駿馬ですな。嘶いて、嘶きのなかに癒しの心が充分漲っていると思います。他の地区まで嘶いて癒しの心を喧伝していただきたい。

西村ガバナー 今日お教えいただいたことを、これからの半年間、じっくりと考え実践していきたいと思います。

ありがとうございました。

- 2月是世界理解月間 -

世界中によりよい人間関係を推進しよう

地区国際交流委員会 委員長 **田中 文夫**
(福井南RC)



本年6月に開催される、バルセロナの国際大会に多数参加いただき、2004年大阪で開催される世界大会をアピールしよう。R.I.D.2650地区の我々の家庭に、ホームステイをしてもらい、私達の家族と食事を共にし、日本の食文化や習慣を学んでいただき更なる友情を深め、国際親善を図り、世界平和はまずロータリアンからと思っています。

“ロータリーの友情交換”は、国際交流委員会の最大の目的です。

友情交換とは、ロータリアンとその家族が相互に訪問し合い、相手の国のロータリアンの家庭に数日間滞在するプログラムです。その目的は、国を越えた個人対個人の交流を通じ、国際理解、親善、および平和を増進することにあります。

地区対地区のプログラムで、このプログラムは4組から6組のロータリアン夫婦が、1ヶ月を超えない期間にホスト地区内の地域社会（シティホールとか市長さんに会うとか、歴史的な建築物や新しい産業、学校や老人用施設等）を、数ヶ所訪問します。

ロータリアン夫婦の数と滞在期間については、関係地区双方の合意により変更できます。経費について、国際ロータリーに対して経費の負担をかけずに実施されます。お互いの国までの交通費は自己負担、食や住については、お互いに受けとる側が負担するという事です。

友情交換で訪問する国は、本年度はR.I.7350地区USAペンシルベニア州となっております。次年度はアラスカにほぼ決定いたしております。親善とホームステイを分ち合うことを希望するならば、世界中どこにでも行けます。

友情交換のホストとなるには、自分の所属しているクラブ会長を通じ申し込んで下さい。クラブ会長は地区国際交流委員会に連絡して下さい。

友情交換の大切さは、単なる休暇旅行中の親切な宿舎を見つける方法ではありません。他国の人について学びたい、国際親善を分ち合いたいという心を持つロータリアン家族が行動を起こすことは、世界中によりよい人間関係を推進するのに効果的な手段です。

ホテルからホテルへ移動するより、その国の家庭料理を味わい、人情味に触れてみてはいかがでしょうか。さあ進んで友情交換に参加しましょう。きっと貴方は、国際親睦と親善の分野における心躍る体験になることでしょう。

委員会ではこれから友好関係や姉妹関係を結ぶにはどうしたらいいか？ということで、各クラブでの良い点、悪い点、今後の問題点をアンケート方式で集計しました。お問い合わせください。



- 2月是世界理解月間 -

こんな大変な時期だからこそ、世界の子供たちへの支援を

地区世界社会奉仕委員会 委員長 **松原 六郎**
(福井フィニックスRC)



今年の秋から世界が大きく揺れ動いています。多くのイベントやミッションが中止になったと聞いています。とくに、政府や国連関係のミッションはその予定を大きく変えざるを得なくなったようです。

わが2650地区のWCS活動も例外ではありません。ミャンマーミッションの前に行う予定であった、WHO西太平洋地区事務局(WPRO)の支援を受けて行う予定であったマーシャル群島のミッションは延期を余儀なくされています。もちろん、来年春から夏にかけて再開するための準備を進めているのですが。

ミャンマーポリオミッションの方はWHO南東アジア地区事務局(SEARO)管轄ですが、同じ地区の中にアフガニスタンとパキスタンが入っているなど、それこそ大変な状況です。しかし実はミャンマーは今、静かなのです。大半が敬虔な佛教徒の国ミャンマーはテロの影響もなく、今日も穏やかで落ち着いた営みを続けているのです。そして、我々の支援を待っている子供たちがたくさんいるのです。

そんな、ミャンマーに折角ポリオ撲滅のための資金援助をするのですから、世界のこれくらいの混乱に負けてはいられません。むしろこんな時期だからこそなおさらしっかりと地に足のついた支援をしなければならないと感じるのです。

西村二郎ガバナーを団長に、平成14年1月9日から17日まで、約60名の団員がミャンマーに向かいます。宮崎パストガバナー、岡村ガバナーエレクトもご参加いただきます。本当に有り難いことです。さらに2名のローターアクトの参加もあります。その他、参加者の中には「実は近い親戚の者が、ビルマ戦線で戦死しているから。」という動機でご参加なさる方もおられます。各自が各自の思いを持って参加するミッションになりました。

ミッションはまず、タイのバンコック経由でミャンマーの首都ヤンゴンに入ります。そして、WHO、ミャンマー厚生省の人たちとともに、ポリオワクチンの投与のお手伝いをします。場所は、マンガレーからイラワジ河を渡ったところにある、サガインという所です。静かな農村です。ここが、かつてインパール撤退してきた将兵たちが次々と死んでいき、白骨街道とまでいわれた道とは想像もつかないくらい、田舎の静かな街道です。沿道には花が咲き、牛車が行き交っています。

次の日は、シャン州のインレー湖畔まで飛びます。そこのヘホー飛行場の近くにある、パオ族の村に小学校校舎を寄付し、その除幕式とともに子供たちとの交流を行なおうと思っています。

個人的なことで恐縮ですが、私はいつも二つのことを考えながら帰ってきます。一つは、お金やワクチンを届けても、いつもそれ以上の価値のある笑顔ややさしい心をプレゼントしてくれること。だから、このような支援というものは一方的なものではないということ。

もう一つは、そのいただいた笑顔や優しさというプレゼントをミッションに参加されなかった、ロータリアンにどうやって届けばよいのだろうか、ということです。

「2650地区の全てのロータリアンがなさった、ワクチンや校舎のプレゼントは、笑顔や優しい心に形を変えて、皆さんの所に届いているはずですよ。もう感じられましたか、それともまだですか？」

新世紀に向けて 共生・感謝・和合 創立20周年を迎えて

園部ロータリークラブ 創立20周年記念事業委員長 岡本 龍雄

地域に根差したクラブをめざし1981年12月13日、亀岡ロータリークラブを親クラブとして発足しました。12月12日(水)に西村ガバナーはじめ来賓来客多数をお迎えして、創立20周年記念例会を開催しました。

穴穂会長は、新世紀のはじまりに20周年を迎え、地域社会に目を向け、更に奉仕の理想追求に邁進したいと挨拶がありました。記念事業報告と中学生の作文入賞者発表、記念事業の目録贈呈、来賓祝辞と祝電披露と続き、歴代会長に感謝状を贈り労をねぎらい、永年100%例会出席会員の表彰が行われました。

記念事業は、(1) JR園部駅西口ターミナルに、弱視者の安全歩行確保のため「自発光タイプ点字ブロック」を24個敷設 (2) ふるさとに関心を持ち続けてほしい希から、管内6中学校の3年生対象に「21世紀の我が町」と題して作文を募集、応募154点の文集を280部印刷して配布 (3) 環境保全喚起のため、各町の数ヶ所に、イラスト標語入りの啓発標識を設置 (4) チャリティゴルフ大会を開催し、189参加者の善意を各社協と京都新聞社に寄託しました。

山田三郎パストガバナーより「21世紀のロータリー」と題して記念講演をいただき、今日の難しい時にこそロータリーの明日を多く示唆されました。

創立20周年を迎えた記念例会は、意義あるものとして私達の心にとまり、これからのロータリー活動のよき指針となりました。

今後ともよろしくお願いいたします。



2001-2002(H13-14)年度

地区大会の予告ご案内

大会テーマ “人類への奉仕”



R.I.リチャードD. キング会長
テーマ

人類が私たちの仕事

2001 - 2002
KYOTO FUKUI SHIGA NARA
R.I.D. 2650
ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2650

R.I.2650地区西村二郎ガバナー
テーマ

国際ロータリーのテーマに向って
-ロータリーを通じて人生の充実で実践を
そして癒しの心で-

と き

2002(H14)年4月27日(土)～28日(日)

と ころ

京都宝ヶ池 国立京都国際会館

大会事務局

〒600-8216 京都市下京区烏丸通塩小路下ル
ホテル グランヴィア京都(内)759号室
TEL 075-342-4687 FAX 075-371-2651

地区大会ホスト 京都南ロータリークラブ

大日方パストガバナー「超我の奉仕賞」受賞



国際ロータリーから「超我の奉仕賞」を受賞された大日方パストガバナー

国際ロータリーのノーベル賞といわれる「超我の奉仕賞」を京都洛西ロータリーの大日方弘明パストガバナーが受賞されました。

大日方パストガバナーは、1982年京都洛西ロータリーチャーターメンバーとして、1984-1985年会長。1999-2000年度には当地区のガバナーを務められ、第2650地区がロータリー財団への貢献世界一になった年度であります。

氏は、職業奉仕の考え方も確固たる持論をもたれ、職業奉仕に当たり、「私の職業奉仕観」をまとめあげられ、地区職業奉仕委員長当時、地区内各クラブ会長並びに職業奉仕委員長に配布、職業奉仕についての冊子を作成し、各ロータリアンの職業奉仕への手本として現在も使用されています。

京都洛西ロータリークラブの創立15周年記念実行委員長時には、その指導力を発揮され、記念事業として、対外的活動資金づくりとしての『もえぎ基金（洛西ファンド）』を創立されています。

R.I.D.2650地区としての1994-1995年度からの継続事業ポリオ根絶（WHO西太平洋地域）の最終ミッションに、中国・ミャンマー国境エリアにガバナーとして、2000年1月10日～19日、78名のメンバーと共に、ポリオワクチン投与の全日程を終了。自らの行動と指導によって、2001年10月29日、京都国際会館でのWHO - 西太平洋地域ポリオ根絶宣言へとつながったことは、功績大なるものです。受賞の知らせに氏は、私ひとりだけのものではない、自クラブの京都洛西ロータリークラブ、京都嵯峨野ロータリークラブの皆さん、いや第2650地区、全ロータリアンのおかげと思っていますと答えられました。

また特筆すべきことに、大日方パストガバナーが務められた年度の、加藤善彦幹事長のご活躍があったことを報告します。



光輝く「超我の奉仕」賞 大日方パストガバナーを讃えて

ガバナー 西村 二郎

大日方パストガバナーが、このたび国際ロータリー最高の榮譽といわれる「超我の奉仕賞」を受賞されました。ご本人はもとより、第2650地区にとってもこの上ない名誉であります。

超我の奉仕賞は“ロータリーのノーベル賞”とうたわれ、本年は全世界110万名のロータリアンの中から141名の方が選ばれたのであります。超我の奉仕を絶えず念頭に、大日方パストガバナーはご自分の日常生活を通じ、与えられた以上のものを与える努力を信念として、精進してこられたのでありましょう。これからもそうであろう第2650地区の偉大なるお手本になっていただき、益々ご健勝で、ロータリアンとしての鏡として私達をご指導賜ることを切望します。

ガバナー表敬訪問

2001年11月6日(火) 奈良大宮ロータリークラブ



会長 中條章夫・幹事 清岡正教

秋色濃い奈良ホテル。和やかに、会長幹事懇談会。クラブ協議会はみなさんの活発な意見交換があり、活気ある元気なクラブです。出席率、10年間100%もおみごとです。(久保洋史記)

2001年11月7日(水) 京都北東ロータリークラブ



会長 味舌正二郎・幹事 石田 徹

味舌会長石田幹事を中心に、地区財団増進の公文委員長、各方面でご活躍の会員が多くおられる和気あいあいのクラブ。今後は会員増強に一層の努力をされ、発展途上のクラブ歴の若いクラブのお手本になられるとの好印象を受けました。(西村俊雄記)

2001年11月13日(火) 王寺ロータリークラブ



会長 辰己久二・幹事 藤崎隆文

辰己会長の高い理念「地域内でのクラブの発展と向上を」との認識を充分理解をされ、各委員長の活発な討議が行われ、将来必ずや成果が得られると思われるプログラム「少年の主張」には、ガバナーも大変注目をされました。

(岩井美晴記)

2001年11月14日(水) 京都朱雀ロータリークラブ



会長 並河 正・幹事 野村紳哉

ガバナーが京都南RCの会長時に創設されたクラブ。随行者も当時の副会長兼拡大委員長と幹事。急な日程変更にもかかわらず、素晴らしい対応に感謝。今後益々発展途上されるクラブです。

(中島喜代一記)

2001年11月15日(木) 京都桂川ロータリークラブ



会長 上原従正・幹事 上山泰弘

創立来12年。平均年齢51才と若々しい活気に満ちたクラブ。上原会長の「新しい仲間を増やし活力のある楽しいロータリーを築こう」そのままの雰囲気、会員増強、インターアクト、地域の環境保全等々活発な活動を展開されています。

(城谷 忠記)

ガバナー表敬訪問

2001年11月20日(火) 福知山西南ロータリークラブ



会長 土佐征英・幹事 吉見光則

土佐会長の指導力で、ホストクラブとして見事な充実した内容でのIMを終えられ、20年の伝統を大切に、明日への一步をとの方針は、会員増強、親睦、情報、青少年活動等と将来必ずや成果の得られるものと思います。

(片岡宏二 記)

2001年11月21日(水) 奈良東ロータリークラブ



会長 谷井勇夫・幹事 泉谷良宏

創立10年の歴史を一区切とし、谷井会長の高い理念での「ロータリーの原点を見つめ直そう」との思いが、多くの見識ある会員に理解され、親睦活動や地域に根ざした諸活動等アクティブな印象度の高いクラブでした。

(吉澤康雄 記)

2001年11月22日(木) 宇治鳳凰ロータリークラブ



会長 神田 豊・幹事 鬼界幸三

歴代パスト会長が築き上げてこられたメンバーの和、親睦の深まり、クラブ運営の維持、継続を神田会長が受けつがれ、女性会員2名を含む若々しい澁刺としたクラブ。WCS活動資金への多額の寄付に対し、ガバナーも感激ひとしおでした。

(蔵岡一彦 記)

2001年11月27日(火) 京都洛南ロータリークラブ



会長 林 甫・幹事 幡歩美和

秋晴れの中暖かいお出迎えをいただきホームページを拝見。和やかにスケジュールが進み、新会員へのバッジ授与、熱心な討議。「第8回伏見吹奏楽のつどい」などの奉仕活動が充実。会員増強が約束されたような今日の秋空のごとくすがすがしいクラブでした。

(中村俊次 記)

2001年11月28日(水) 京都山城ロータリークラブ



会長 駒 重則・幹事 奥本隆一

創立10年を迎えられ、福井正典ガバナーノミニー、吉村好司次年度ガバナー補佐が在籍される地区注目のクラブ。駒会長は二年後には70名以上の増強方針。全ての面で情熱と活気に満ち溢れた雰囲気の良いクラブでした。

(阿閉嘉美 記)

ガバナー表敬訪問

2001年11月29日(木) 橿原中央ロータリークラブ



会長 中前雅男・幹事 羽川幸賢

中前会長の暖かみのあるクラブ運営がなされ、パスト会長始め、全会員のまとまりと若さ、活気が感じとれ、ユーモアのあるやりとりは、創立11年を迎えられたクラブが益々発展されることを確心しました。(阿閉嘉美 記)

2001年12月3日(月) 京都中ロータリークラブ



会長 橋本史郎・幹事 斉藤栄一

前年度創立10周年を終えられ、橋本会長テーマ「新創立元年」好意と友情を深めようのもと、さらなる発展と向上を目ざしておられます。全会員が元気に楽しくロータリー活動をされている、新世紀にふさわしい和やかなクラブと拝見しました。(堀井謙二 記)

2001年12月4日(火) 野洲ロータリークラブ



会長 小村悌五・幹事 樋上一郎

びわこ大橋に近い野洲RCは、60名の会員を擁し創立18年目にあたります。「学ぶために集まろう」という小村会長のテーマからも伺えるように、非常に積極的にロータリー活動に取り組んでおられ前向きな姿勢に感銘を受けました。(谷口主嘉 記)

2001年12月5日(水) 京都嵯峨野ロータリークラブ



会長 八木晋司・幹事 名井得郎

「エンジョイ・ロータリー」をテーマに、感性豊かにクラブ運営をされる八木会長。クラブ組織の充実、積極的な奉仕活動、会員増強等、奉仕の理想に向けて全会員が一丸となりロータリーライフをエンジョイされています。(塩山大介 記)

2001年12月6日(木) 大津唐橋ロータリークラブ



会長 金谷州明・幹事 井上和彦

創立来7年目を迎えられ、金谷会長の活力あるクラブ運営で、まとまりと方向性が定まり、27名の全会員一丸となつての青少年、国際、社会奉仕活動「唐橋焼の作陶教室」また次年度IMのホストクラブとして、情熱が感じられる印象的な訪問でした。(東 智 記)

未来への発信

時に意識を



奈良東RC 岩本 金吾

ロータリークラブ会員として、8年の月日を過ごさせて頂きました。しかし、いまだにロータリーの真髄は何かわかっておりません。ただ、創設者であるポールハリス氏や、国内外の諸先輩方が残された、ロータリークラブ100年近くの歴史は、今もなお語り継がれております。その功績を耳にし、後輩として在籍させて頂いていることに誇りを感じます。同じくして、現在ロータリークラブ会員として取組まれている活動は、未来において、すばらしい業績として残っていくことと思います。

100年という、長い歴史の間には、社会が求めた事柄にかなりの相違があったにちがいありません。そこで、現代社会がロータリークラブに何を望んでいるのか。また、ロータリークラブは現代社会に何ができるのかをしっかりと意識するべきではないでしょうか。2000～2001年度国際ロータリー会長フランク・J・デプリン氏のお話に、「意識を喚起することが、問題に対してロータリアンの目を開かせます。ロータリアンは、問題に対して目が開けば話し合います。討論します。そして取るべき最善の方策について検討します。また私達の方策に賛同してくれるロータリアン以外の人々や、他のグループを探し出し、そうして進んで行動を起こすのです。」とおっしゃっています。

通年行事を滞りなく進めることも大切ですが、その時、その時代に意識を向けることを決して忘れてはならないと思います。戦前、戦後、高度成長期、バブル全盛期、現在では、ロータリアンにおいても、社会においても、考え方が全く違っており、価値観や常識、社会通念までもがどんどん変化しています。名誉や制約を守るだけでなく、社会が求めることを見出し、それを実行することで、ロータリーの真髄がわかってくるのかなと私は思います。

合掌

思い出は、素晴らしい財産



亀岡RAC 会長 寺西 咲子

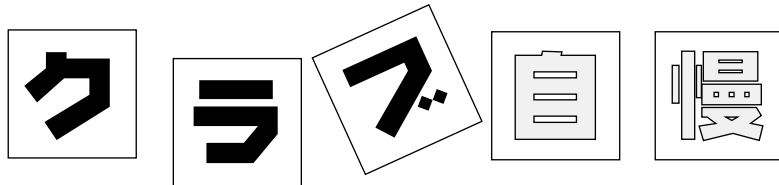
ローターアクトクラブとは、18歳から30歳までの男女が集まった、奉仕活動と親睦交流を行う国際的若年団体です。奉仕の尊さを知り、その中から友情を育み、リーダーシップを身につけ、これからの世界を担うようにと、ロータリークラブによって創立されました。

ローターアクトを説明するとこのような表現になります。しかし、アクトの魅力についてお話ししようと思うと、まるで味を説明する時のような難しさを感じます。

私がローターアクトで過ごした（今も過ごしていますが）5年間は、いろいろな活動を通して、いろいろな人と出会い、苦しいことも、楽しいことも良い思い出になっています。この思い出というのが、素晴らしい財産だと私は思っています。思い出になるということとは、その一瞬一瞬に何か感動があったということではないでしょうか。感動できるということは、「確かに生きている」ことだと思います。

ロータリークラブの皆様が耕して下さったローターアクトという畑には、たくさんの栄養があります。私達はいつか期待に添える花が咲かせられるよう、その栄養を吸収し、がんばっていききたいと思います。





一本指打ちでも「パソコン同好会」

寿栄松 憲昭（京都RC）

今やIT抜きでは世の中暮らしていけない時代。R.I.も地区の情報もインターネットやEメールで届くのがあたりまえ。その中であって平均年齢63歳超の京都クラブでは、意識は高くても指が動かないパソコンアレルギーの人のためにもと、昨年6月パソコン同好会が発足しました。現在会員数46名。年会費は僅か1,000円。社長さんや先生といったロータリアンも、部下やお弟子さんにパソコンの使い方を今さら教えて貰うのは、何となく遠慮がち。ロータリアン同士なら恥をかいてもと、月に1-2回パソコンを前にしてセミナーを開催。月1回パソコンについての記事、「お気に入りURL」、困った問題を助ける掲示板、苦労話、デジタル写真の発表などを満載した会報をメールで送信しています。今年の年賀状は会員相互でメールを使って送信し、腕を競いました。

パソコンこそ、高齢者にとって社会をつなぎ、友愛を広げ深めるには本当によい道具です。若い人たちの独占物ではなく、若者とのコミュニケーションの手段にもなります。会員の中には20年を超える経験の大ベテランから、1ヶ月前にパソコンを購入し、一本指でゆっくりとキーを打つ超初心者まで、いろいろな会員で構成されています。たとえ五月雨打法であっても、それで丁度よい加減に考えがまとまり、添削しながら文章をつくるには良いスピードだということで、われわれパソコン同好会は皆さん楽しんでます。



これからも増やしたい同好会

岩下 春幸（福井RC）

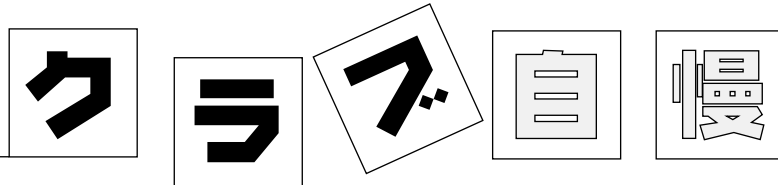
昨年12月に、県下の会員増強委員長会議が行われました。委員長が都合で出席できなかったため、当時副幹事だった私が代理出席致しました。色々と意見ができましたが、話は増強よりも退会防止に腐心していることに集中したように記憶しております。

私が在籍しております福井ロータリークラブは、会員の減少が進んでいる中であって比較的現有勢力を維持しているクラブの方だと思っております。そのせいでしょうか、増強とか、退会防止とかに関しては希薄な一面があったように思われます。そんな会議の中でたくさんのクラブが退会防止策として、またクラブの活性化を図るために楽しく愉快的様々の同好会を作って、魅力あるクラブ作りを行なっているのが大変多いことに驚きました。

それまで福井ロータリークラブには、「友の輪会」というゴルフの同好会だけが活発に活動しているに過ぎませんでした。その会議に出席してから私はことあることに「何か同好会を作っては」と言い、事務方も引き受けております。

その甲斐あってか、今日までに「お酒を楽しむ会」「山登り同好会」が立ち上がり、「友の輪会」と合わせて三つの同好会を楽しく運営されるまでになってきました。他のクラブと比べると、まだまだ同好会の数は少ないですが、楽しい同好会をこれからもどんどん作って、さらに魅力ある福井ロータリークラブにしていきたいと思っております。





24もある同好会

長谷川 茂(京都南RC)

最近よく他のロータリークラブの皆さんに、京都南さんは会員増強に熱心ですね、会員数が減らないのは何故ですか。というような言葉がよく聞かれます、事実この5年間を振り返りますと、多少の増減は有るとしても、約220人前後で会員数は推移しています。これは、長引く景気の低迷から退会者を余儀なくされ、新たな会員確保に躍起になっておられるクラブには羨ましい限りだと推察いたします。私が思うに、京都南RCの会員は皆さん本当に仲が良いです。そして、クラブ内に活気があふれています。これは会員同志が深い信頼と友情によって結ばれ、そこからロータリアンとしての奉仕の精神が生まれ、知らぬ間にクラブ全体が奉仕の理想に向かい、打ち進んでいるのだと思います。この姿が、部外者からすると京都南RCのパワーとして映っているのではと思っています。

このような団結を生じさせているのが、わがクラブに24存在する同好会活動であります。それ以外に同じ月に生まれた会、十一月なら土(さむらい会)、エトの会、西村姓が多く西村会など。同好会を減らす会をつくらねばと、冗談がでるくらいです。

一つの趣味を通じて親睦を深め、そこから友愛が生まれる、そして、職業奉仕・社会奉仕に発展し、国際奉仕に繋がるのではないかと思います。この理念こそが「奉仕の理想」であります。ロータリーの本質は「親睦の中から奉仕の理想を生み出す集団」であると私自身信じております。



歴史と伝統を誇る

水口ロータリークラブ杯「甲賀郡少年サッカー大会」

辻 弘男(水口RC)

第24回水口ロータリークラブ杯「甲賀郡少年サッカー大会」が、2001年(平成13年)11月13日24チームの参加の下、盛大に開催されました。この伝統あるサッカー大会は、1978年(昭和53年)「サッカーを通じて青少年の奉仕活動の一事業として」産声を上げました。過去、数ある選手諸君の中から、実業界やJリーグにおいて華々しく活躍され、よくご存じの日本の代表選手に何度となく選ばれた井原正巳選手。第2回大会に小学6年生で「貴生川サッカースポーツ少年団」の一員として出場し、その当時のチームメイトと共にユニホーム姿で撮影した写真が生家に大事に仕舞ってあるそうです。

1997年(平成9年)には、「第1回日韓少年サッカー親善交流大会」を開催。8月に3泊4日の行程で、選手18名、指導者、保護者、ロータリアンの46名で韓国を訪問。2000年(平成12年)には、韓国から選手団を迎え、創立40周年記念行事の一事業として「第2回日韓少年サッカー親善交流大会」を開催致しております。

2001年(平成13年)に草津東高等学校が、「全国高校サッカー選手権大会」で準優勝という輝かしい成績を納め、我が湖国の人々に素晴らしい感動を与えてくれ、少年期、我が「甲賀郡少年サッカー大会」で活躍した選手が、6名出場し、甲賀郡のサッカーは輝かしい歴史と伝統を有しております。

今年度、水口RC会長のスローガンである「先人の努力は未来の誇りに」を念頭に、この大会をさらに栄えるものへと育てて未来の誇りにと、念願するものであります。

